

令和7年7月吉日

各小中学校長殿

東京学芸大学附属特別支援学校長殿

多摩地区特別支援教育研究会

会長 木田 兼治 公印略

(羽村市立羽村第三中学校長)

多摩特研 研究部 夏の研修会のお知らせ

日頃より多摩特研の諸活動にご理解をいただき感謝しております。

本会は、多摩地区各市町村および東京学芸大学附属特別支援学校から頂く補助金で運営される教育・研修団体です。研究、行事、調査、広報の各部が主として特別支援学級・学校の教員を対象とした活動を行っております。

今年度は、下記の通り夏の研修会を4つ開催いたしますので、ご案内申し上げます。多くの先生方の参加にご配慮いただきますよう、お願い申し上げます。

今後とも本会の活動にご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

記

① 7/23(水) 夏季進路指導セミナー

障害のある子の「親なきあと」～「親あるあいだ」の準備～

② 7/29(火) 講演会Ⅱ「学校教育にかかわる医学医療の役割について」

講師：藤井 靖史 氏

③ 8/ 6(水) 講演会Ⅲ「心の病と発達障害」～子どもが言って欲しいことを言うスキル～

講師：鹿島 直之 氏

④ 8/ 1(金) 夏季研究会

1. 授業実践報告（中学校情緒固定・中学校知的固定の授業実践レポート）

講師：小林 徹 氏

2. 講演会「友だちといっしょに物語を読もう～知的固定学級（小学校）の国語の授業づくり～」

講師：鈴木 智代子 氏

連絡先

多摩特研 研究部長 金田 有希

日野市立大坂上中学校 特別支援学級

kanada-yuki@ed-hino.jp

② 講演会Ⅱ

「学校教育にかかわる医学医療の役割について」

講師:藤井 靖史 氏【帝京大学名誉教授、発達神経学専門、医学博士】

日時:令和7年7月29日(火)午後01時15分~16時00分

会場:NATULUCK立川北口 (多摩モノレール 立川北駅 徒歩4分)

内容: 医学部兼任で教職大学院にて16年間教員養成に携わり、この春退官され現在はさいたま市の療育センターで外来診療を行っている小児科専門医・小児神経専門医の藤井先生をお招きするに至りました。過去にも何度か来ていただいた藤井先生ですが、9年ぶりとなります。

実は昨年度も依頼させていただきましたが、既に夏の予定が全て埋まっていた反省から、前年度よりお願いをしていたことで今年度の講演が実現しました。藤井先生のお話は分かりやすく、出席した先生方からもっと詳しく話を聞きたいというリクエストが多かったことで、過去に繰り返し来ていただきました。本講演会では、大学と療育センターでASDやADHD等の子どもの診療をし、大学ではLD外来や個別の学習支援教室を運営してきた経験から、教育にかかわる医学医療の役割についてお話を来ていただく予定です。

私たちの対象とする子どもたちは、もともと自尊感情が育ちにくいと言われています。二次障害の予防の鍵となる自尊感情や自己肯定感を持ち続けるための支援は、合理的配慮にも該当することから私たち教員の役目ではないでしょうか。そのためには、どのように子どもたちを理解し、対応すれば良いのかを一緒に学んでいきたいと思います。また、薬に関するお話や保護者支援についても触れていただく予定です。通常学級の先生方にもお声をかけていただき、奮ってご参加いただきたいと思います。

③ 講演会Ⅲ

「心の病と発達障害」～子どもが言って欲しいことを言うスキル～

講師:鹿島 直之 氏【精神保健指定医、町田まごころクリニック院長】

日時:令和7年8月6日(水)午前09時15分～12時00分

会場:立川市女性総合センター・アイム(立川駅徒歩5分)

内容: 講師は、精神科専門医でクリニックの院長を務め、町田市の中学校精神科校医を兼任さ

れている鹿島先生です。昨年度初めて本研究会にお呼びし、授業形式で行うスタイルに大変ご

好評をいただきアンコールの声が多かったため、今年度も夏の研修会にお招きいたしました。

鹿島先生は、精神科一般に加え、小児精神科の診療にも従事されていて、西洋医学の薬物療法

に偏らず、日本独自の森田療法や瞑想など、個々に合わせて様々な視点からアプローチをして

いくという治療方針をもっています。さらに、町田市の引きこもりの対応にもあたっているカウンセリ

ングのNPO法人「ここからネット」の会長も務めている他、成城大学、日本大学、アルファ医療福祉

専門学校でカウンセリングや精神医療について教鞭をとられるなど、医療現場のみならず教育の

場でも精力的に活躍されている大変親しみやすい医師です。去年は成城大学で学生の評価をもと

に、優れた教員に与えられる昨年度ベストティーチャー賞を受賞されています。

インクルーシブ教育が世界的な潮流になっている昨今、学校現場でも「合理的配慮」の名の

元に個に合わせた治療的・療育的な対応が求められています。これまでの先生の様々な実践経

験から、教員でもできる具体的で望ましい対応、および支援者に求められる心のあり方やその

保ち方を、学んでいただきます。現場ベースのお話が聞けるこのチャンスをお見逃しなく。

④ 夏季研究会

I. 授業実践レポート

①中学校の情緒固定学級の授業実践（羽村市立羽村第三中学校）

②中学校の知的固定学級の授業実践（八王子市立加住小中学校）

講師：小林 徹 氏（郡山女子大学教授）

2. 講演会「友だちといっしょに物語を読もう～知的固定学級（小学校）の国語の授業づくり～」

講師：鈴木 智代子 氏（元障害児学級担任）

日時：令和7年8月1日（金）午前09時30分～15時30分（昼休憩12:00～13:00）

会場：日野市立大坂上中学校 食堂（日野駅徒歩15分）＊上履きご持参ください。

内容： 午前は、中学校の授業実践レポートを2本発表します。中学校の情緒固定学級の授業実践と知的固定学級の授業実践です。講師を郡山女子大学教授の小林先生にお願いしてあります。

午後は、「友だちといっしょに物語を読もう」と題して、もと知的固定学級担任の鈴木智代子先生がお話をします。国語の授業づくりに力を注いでこられた鈴木さん。低学年の子どもたちとは、響きの楽しいお話を読んだり生き物を育てながら説明文を学んだり。高学年の子どもたちとは、登場人物の気持ちに共感しながら物語文を読んだり表現を工夫して音読したり。鈴木さんの授業では、子どもたちが安心して考えを表し、友だちの意見を聞き考えを深めます。「うんうん、そうだね。ぼくもそう思うよ。」「えっ、それはちがうんじゃない？」と、友だちと一緒に学ぶことで子どもたちは自分づくりをしていきます。そんな国語の授業について話していただきます。